

政策分野/担当部署	具体的な施策	目的	KPI(重要業績評価指標)	現状値(H27年度)	目標値	H28年度の実績値	H29年度の実績値	H29年度の検証結果	H30年度以降の見込み	今後の方針	方針の理由		
ひとの育成	総合政策課 1-1	中学生と高校生の地方創生参画推進事業	地域と市内の高校(志摩高校及び水産高校)のつながりを強化して、地域を知る機会と地域で活躍する機会を在校生に提供するとともに、地域が高校について知る機会も創出することで、地域の高校の魅力を向上させ、卒業しても地域のために何かをしたいと想ってくれる若者を育てる。	・全ての中学校で地方創生に関する説明会 ・地域に誇りを持つ生徒の割合と将来は地域に誇らしていきたいという生徒の割合	—	毎年1回以上開催	1回	2回	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	次世代を担う中学生に対する地方創生の説明会(授業)は、志摩市の現状や地方創生の必要性を理解してもらうためにも必要な取り組みであると考え、高校生に対するアンケート調査についても、志摩市に対する愛着や誇り、生活する場としての設備を行っており、経年変化をみることで高校生の意識の変化を確認することができる。アンケート方法については志摩市独自に実施するのではなく、県南部地域活性化事務局でも同様にアンケート調査を実施しているため、そのアンケート結果を提供してもらい分析することで、高校側に負担をかけない形で調査を継続していきたい。	
	介護・総合相談支援課 1-2	介護予防ボランティアでポイント事業	世代を超えた交流や地域とのつながりがもてる活動を地域支援事業に加えることで、自ら介護予防をしながら健康寿命を延ばす高齢者だけでなく、介護に関して広く関心をもつ市民を育成する。	・地域支援ボランティアとして活動する人の数 ・ボランティア活動に参加した年間の通算人数	0人	毎年500人以上	232人	263人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	当初目標値には達していないが、地域支援ボランティアとして活動する人の数は28年度から29年度にかけて伸びており、地域での事業の認知または制度利用をしようという人が増え、広がりを見せている。今後も周知・宣伝を進め、活動者数の増加を目指す。	
	観光商工課 1-3	がんばる市民を応援する事業	意欲的に技術や能力を高めようという市民を支援して、市民のパフォーマンスを向上させるとともに、そうした人材のネットワークを構築する。	・助成事業による年間の資格取得者数 ・奨励事業による指定資格の取得者数 ・資格取得者のネットワーク	—	50人以上	—	3人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	資格取得支援事業については、昨年度末に要綱を改正し、補助対象経費を見直し、資格取得に要した試験の受験料及び検定料を対象経費となるようにした。また、資格取得奨励金についても、対象資格を増加した。この対応により、補助金交付者数が昨年度より増加するかどうかを検証する。	
	総合政策課 1-4	地域とのつながりによる県立高校の魅力向上事業	地域と市内の高校(志摩高校及び水産高校)のつながりを強化して、地域を知る機会と地域で活躍する機会を在校生に提供するとともに、地域が高校について知る機会も創出することで、地域の高校の魅力を向上させ、卒業しても地域のために何かをしたいと想ってくれる若者を育てる。	・地域と高校で魅力向上のための対策が検討されている ・両校の生徒が活躍する機会 ・インターンとして生徒を受け入れてくれる事業者の数	—	検討されている	検討されている	7回	11回	【A】 目標値を達成し、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	様々な取り組みを通して、生徒の活躍の場が広がっている。今後も継続して取り組みを進めることで、県立高校の魅力の向上に繋げていきたい。
	健康推進課 1-5	二十歳からの健康貯蓄事業	健康に対する意識が比較的低い傾向にある20代と30代を対象に、集団健診の機会を提供することで、健康づくりの大切さを認識し、自ら重症化を予防することを心がける健康的な生産年齢世代を育成する。	・定期的に健康診査を受けようと思う人の割合 ・健康診査の受診者に占める再受診の割合	71.0%	毎年50%以上	71.0%	88.4%	【A】 目標値を達成し、効果があった。	【A】 大きな効果が期待できる。	【A】 事業の継続	20歳代・30歳代の健診のニーズは高く、健診受診者については若い時から健康づくりや生活習慣病予防に関する情報提供が実施できることから、継続実施の必要がある。KPIの一つ「再受診の割合」は、達成度が低く、実施方法や指標を見直したい。	
	総合政策課 1-6	心豊かな暮らしを育む人材育成事業	志摩の自然や風土に根差した志摩ならではの心豊かな暮らし方を考案し、それらを実現させるとともに、もって持続可能な社会の構築に寄与することを目的とする。	・考案されたライフスタイルの数 ・心豊かな暮らし方の実践に向けた取り組みの数	—	延べ200以上	延べ60	延べ76	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	【C】 あまり効果が期待できない。	【B】 事業の見直し	今後予測される環境制約下で、志摩の自然や風土に根差した心豊かなライフスタイルを提案する事業であり、市職員と市民によるワークショップをそれぞれ開催して、地域的な取り組みを実施した。なお、本取り組みは東北大学大学院環境科学研究科との間で、平成28年6月16日から3ヶ月で実施にかかる協定を締結している。	
	総合政策課 2-1	若者の希望を叶える志摩づくり事業	志摩市の若者と共に若者を確保するための施策を検討し、検討結果を市の施策に反映させることを通じて、若者の希望が叶えまわすことを推進する。	・まとめられた事業(計画) ・取り組むことを決めた事業	—	延べ8件以上	延べ3件	延べ5件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	具体的な取り組みが実施できるようワークショップを開催しており、実行グループを組織し、30年度は具体的な取り組みを進めている。今後も、若者にとって魅力のある事業提案をしてもらい、グループにて実施できるようにしていく。	
	総合政策課 2-2	若い女性が暮らしやすい志摩づくり事業	若い女性にとって住みやすい、働きやすい地域にするための施策を女性と共に検討し、検討結果を市の施策に反映させることを通じて、若い女性が暮らしやすいまちづくりを推進する。	・検討結果の普及啓発を行った回数 ・改良または設計された施策の件数	—	延べ4回以上	実績なし	実績なし	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	28年度、市に提言した内容を啓発していくため、29年度は提言内容が実際に若い女性の思いに沿うか確認をすべくアンケートを実施し、その結果も加味して具体的な取り組みを検討していく。	
	総合政策課 2-3	移住しやすい志摩づくり事業	志摩市に移住した人々と共に志摩市の移住しやすさや移住に伴う苦労についてとりまとめ、その結果を市の施策に反映させて移住しやすいまちづくりを推進するとともに、多様な移住者のつながりを築く。	・情報提供や支援体制に対する移住希望者の満足度 ・支援体制に協力してくれる移住者の数	—	H31に70%以上	実績なし	実績なし	【E】 実施していない。	【C】 あまり効果が期待できない。	【A】 事業の継続	29年度に支援体制として検討したメールによる問合わせについて、30年度にシステム構築と支援者の募集を行う。移住希望者の満足度がKPIになっており、支援体制のシステムの運用時に、メールによるアンケートの実施を検討しているが、この手法で満足度が測定できるか今後とも検討が必要。もう一つのKPIは、支援体制に協力してくれる移住者の人数であり、現在ワークショップに参加していただいている方の人数としているが、30年度はメールでの問合せによる支援体制に協力していただく方の募集を行い、その結果を反映していく。	
	水産課 2-4	水産業の担い手受け入れ推進事業	志摩市内にある漁業集落に若者を受け入れる雰囲気や醸成するとともに、新たに漁業に従事しようとする若者を支援して、各地域における漁業者を増やす。	・若者を受け入れる条件が整理された漁業集落の数 ・若者を受け入れた漁業集落の数	2集落	延べ5集落以上	延べ2集落	延べ3集落	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	的矢地区においてカキ養殖漁業に従事する意志のある若者等を募集し、29年度から担い手として1名を受入れカキ養殖漁業の技術を習得中であり、30年度からは、新たに1名を受入れ2名でカキ養殖漁業の技術を習得していただく予定である。	
総合政策課 2-5	IJU(移住)ターン促進のための奨学金返済補助事業	奨学金を受けて大学等に進学し、卒業した若者の奨学金返済額の一部を補助することで、志摩市への若者の移住、定住を促進する。	・制度を利用した人の数	—	延べ100人以上	実績なし(要綱整備のみ)	延べ13人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【B】 事業の見直し	事業実施初年度(29年度)において、13人1,531,000円の補助実績があった。今後も周知啓発を行い、市内に移住、定住しやすい環境づくりに取り組んでいく。また、人材確保と定住促進を図ることを目的としているため、まらの活気につながるような仕組みになるよう検討していく。		
総合政策課 2-6	若者の集いと出合いの支援事業	志摩市に若者が集まるイベントを支援することで、若者の出合いや地域の魅力を若者が再発見する機会の創出を促す。	・支援したイベント等で集った若者の数	—	毎年200人以上	374人	432人	【A】 目標値を達成し、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	29年度5事業の補助申請があり、若者の出合いや地域の魅力を再発見する事業に対する支援を継続していきたいと考える。		
都市計画課 2-7	家主と移住者のためのリノベーションによる空き家活用等事業	志摩市内の空き家のリノベーションを推進し空き家の活用を図るとともに、リフォームにも助成し移住者を増やす。	・リノベーション助成を利用して移住した件数 ・リフォーム助成を利用して移住した件数	0件	延べ5件以上	延べ2件	延べ4件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	実績として、リノベーション2件、リフォーム2件の申請があった。引き続き、事業に取り組み移住の促進及び定住を図る。		
総合政策課 2-8	若者世代の移住促進事業	若者または中学校卒業前の子どもをもつ世帯の移住を促進し、若者世代を中心に社会派を抑制する。	・制度を利用して移住した件数	—	延べ5件以上	実績なし(要綱整備のみ)	13件	【A】 目標値を達成し、効果があった。	【A】 大きな効果が期待できる。	【A】 事業の継続	29年度に実施に伴う要綱の不具合部分を改正し、30年度も継続して運用していく。この制度に関して問い合わせをする移住希望者も多く、移住と移住後の定住に向けて継続的に支援制度を活用していく方向で考えている。		
農林課 2-9	農業の担い手受け入れ推進事業	志摩市内で新たに農業に従事する人を増やすとともに、農業を伝える人材を育成することで、農産物の生産量を増やし、持続可能な農業の確立を図ることを目的とする。	・生産指導を行う既存の農業者(個人又は団体の数) ・新たに農業に従事した者の数 ・生産量が増加した農産物の数	—	3者以上	実績なし	2者	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	志摩市における農業の担い手は、高齢化と後継者不足でその数は年々減少していることから、地域おこし協力隊制度等を活用し、地域のニーズにあった受け入れ体制を進めている。		
まちの発見	市長公室 3-1	志摩市ホームページの魅力向上事業	志摩市のホームページ運営において、市民と志摩市と交流のある市外の人の協力を得て、志摩市の魅力を発信するとともに掲載内容の面白さを追求し、志摩市に興味を持ってもらう人を増やす。	・HPの年間アクセス数 ・HPへの市民による年間投稿件数 ・HPが見やすいと答えた人の割合	300,000件	年間325,000件以上	425,256件	438,123件	【A】 目標値を達成し、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	HPへのアクセス件数は目標を上回ったが、投稿件数・見やすいと答えた人の割合は目標を下回った。個別では目標数値をクリアできていない項目もあるが、問合せフォームを設置して閲覧者に対して問合せることにより多少なりとも関心をもつられるときかけとなり、全体的には志摩市に興味をもってくれる人は増加傾向にあると思われ、ある程度の効果は期待できる。	
	総合政策課 市長公室 3-2	きりり志摩びと紹介番組放送事業	志摩市のあらゆる分野で元気に頑張っている市民やその分野に精通している市民を、広く市民に紹介するとともに、紹介した人との人材ネットワークを構築する。	・番組で紹介した市民や団体の数 ・番組を見た市民の割合 ・番組で紹介した人とのネットワーク	—	延べ50以上	延べ11件	延べ17件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【C】 あまり効果が期待できない。	【B】 事業の見直し	番組の放映は定期的に実施できたが、視聴者は目標値には達せず、出演者のネットワークを構築することもできなかった。活躍されている方々の紹介は行うことができたが、その後の展開が思うように進まなかった。	
	総合政策課 市長公室 3-3	志摩びと結ぶ志摩市広報事業	「広報し」を活用し、様々な分野で活躍する市民の存在を広く市民に紹介するとともに、リレー方式で紹介していくことで、活躍する市民のつながりを豊かにする。	・紹介した市民の数 ・特設コーナーを読んだことのある市民の割合 ・紹介した人とのネットワークの構築	—	延べ50人以上	延べ10人	延べ21人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	【B】 効果が期待できる。	【A】 事業の継続	リレー方式による出演者の紹介により、市内の人的ネットワークの構築には成果があったと考える。30年度からは、「きりり志摩びと紹介番組放送事業」と併せて「きりり志摩びと紹介事業」として実施している。引き続き、市内で活躍している方々を紹介する機会を確保する必要があると考える。	
	総合政策課 3-4	地域の資源を活用するためのプラットフォーム創出事業	様々な知識、経験、技術及びアイデアを有する市内の人や団体が連携できる場(プラットフォーム)を創出することで、地域の再発見と地域の資源を生かす市民の協働を促す。	・プラットフォームに参加している人の数 ・プラットフォームを通じて生み出された協働の数	—	延べ100人以上	102人	183人	【A】 目標値を達成し、効果があった。	【C】 あまり効果が期待できない。	【B】 事業の見直し	プラットフォーム事業を実施した後の人的ネットワークや協働での取り組み状況などが十分把握できていない。	
	農林課 3-5	農産物の生産実態把握事業	市内で生産される農産物について、産品別の生産量と生産額を把握するとともに、販売場所、流通経路等も把握する。	・調査に協力してくれた人の割合 ・生産量及び生産額、並びにそれらの物流の把握	—	調査実施時に70%以上	18.1%	実績なし	【E】 実施していない。	【C】 あまり効果が期待できない。	【B】 事業の見直し	農産物の生産実態把握は必要ではあるが、調査対象者の把握等、農業関係団体(JA)等との協力が不可欠である。28年度に調査を実施しているため、状況等を見ながら関係団体等と調整し、事業実施に向け検討する。	

